

自分の思いや考えをいきいきと表現できる不土野っ子の育成 ～新聞を活用した学習を通して～

椎葉村立不土野小学校
教諭 児玉 真理

1 はじめに

本校は児童数10名で、平成28年度よりNIE独自認定校として指定を受け、NIEに取り組んできた。1年目は積極的に児童の作文・習字・絵等を新聞へ投稿したり、新聞をスクラップしたりするなど、児童一人一人の学習の関心意欲を高める手立てを講じてきた。2年目になる今年度はさらに新聞を活用し、児童が自分の思いや考えをいきいきと表現できることを目指して、実践に取り組むことにした。

2 学校としての取組

(1) 朝のNIE活動の実施

朝の活動において全校でNIE活動を行った。1学期は、自分のテーマに沿った新聞スクラップを行った。

【資料①】1学期の終わりに感想を発表し合い、次はどんな活動をしたいか話し合った。

2学期は、児童が興味を示したスクラップ新聞作りを行った。まず初めは『桐生選手の日本新記録達成』の記事を読み合い、自分の気になった記事にサイドラインを引き、付箋を活用して感想を書いて発表した。



【資料① 朝のNIE活動（個人）】

『世界 Jr サーフィン大会開催』について全校で3つのスクラップ新聞を作った。【資料②】その後グループに分かれてスクラップ新聞作りを行った。【資料③】さらに出来上がったスクラップ新聞を廊下や体育館に掲示し、保護者や地域の方に見ていただき、児童のNIE活動について関心をもってもらえた。



【資料② 朝のNIE活動（全体）】



【資料③ 朝のNIE活動（グループ）】

(2) 新聞置き場と整理の方法

配達された新聞を図書室のケースに入れ、児童がいつでも新聞を見られるようにした。そうすることで、様々な教科の学習で児童が新聞を自由に資料として使うことができるようになった。また、新聞社が1ヶ月ごとに変更になるので、新聞社ごとにケースを分けるようにした。新聞の管理や整頓は図書委員会の児童が行った。

(3) 新聞作品投稿への取り組み

ア 作品投稿

宮崎日日新聞の『若い目』『みんなの作文』のコーナーに作文を、『かりぼし往来』のコーナーに習字や絵を投稿することに全員が挑戦してきた。新聞掲載を目標に一人一人が意欲をもって書く姿が見られるようになった。今年度も全校児童の作文が掲載された。今年度だけで4回掲載された児童もいて、友達の作品が掲載されると「次は自分がのる番にしたい！」と一人一人が真剣に取り組む姿が見られるようになった。

イ 作文の紹介

児童作品が掲載されると朝のNIEタイムの時間を活用して全校児童に紹介してきた。この活動を行うことで、よい表現の仕方を伝えたり、児童の意欲付けをしたりすることができた。また通信に児童の作文や習字などを掲載した。自分の作品が掲載されると、とてもうれしそうにする姿が見られ、進んで作文を書いたり、字を丁寧に書こうとしたりする姿が見られるようになった。また、友達やお家の人や地域の方々に称賛の言葉をかけてもらったことで、児童は書くことへの意欲を高め、自信を深めることができた。

ウ 新聞掲載作品の掲示

新聞活用の学習をした内容について、学習中だけでなく1年間を通して掲示をしてきた。児童の作品は学習後必ず掲示を行った。【資料④】なかでも、新聞掲載された作品は、コメントを書いてラミネートし家庭に持ち帰らせる分と校内に掲示する分を作成した。掲示することで自分の作品を振り返ることができるだけでなく、友達の文章も読めるようにした。【資料⑤】



【資料④】 N I E 学習作品掲示



【資料⑤】 N I E コーナー

3 実践事例

(1) 第3・4学年国語科での授業実践

3年生は『気持ちを言葉に』の単元で、新聞に掲載されている詩を読み、詩のおもしろさやまねしい表現などを見つけて伝え合う学習を行った。4年生は『言葉をつなげて』の単元で、新聞掲載作品の詩の第1連に続けて次の連を考える連詩作りの学習を行った。新聞活用のポイントとして子ども新聞に掲載されている児童作品を活用することで、児童の興味・関心を高め、学習意欲の高揚を図った。また、興味をもった作品のよさについて一人で考える時間や友達と学び合ったりする時間を十分に確保し、付箋やホワイトボードを活用することにより、自分の思いや考えを伝え合う活動に意欲的に取り組むことができたようにした。

【N I E 学習指導案】

第3学年

- 1 単元名 「気持ちを言葉に」
- 2 単元目標
 - 生活の中から発見や感動を見つけ、そのときの様子や気持ちが伝わるように、言葉を考えて詩を書くことができる。 (書くこと)
- 3 児童の実態
 - 本学級の児童3名(男子1名、女子2名)は、詩や短歌、俳句を読むことは好きである。また詩の中から季節を感じたり、好きな詩を暗唱したりする様子も見られる。しかし、自分が感じたことを詩で表現することは難しく感じているようである。

第4学年

- 1 単元名 「言葉をつなげて」
- 2 単元目標
 - 言葉から想像を広げて、友達と連詩を作ることができる。 (書くこと)
- 3 児童の実態
 - 本学級の児童2名(男子2名)は、詩や俳句を読むことは好きである。詩に興味があり家庭学習で詩の視写をしてくることもある。しかし言葉から想像を広げて文を書いたり、詩を作ったりすることは難しく感じているようで、進んで詩を創作することはあまりない。

- そこで本時では、新聞の中にある詩を使って、気付いたことや気持ちが動いたことを考えさせることを通して、表現の工夫に気付かせたい。それをもとに毎日の生活の中から気持ちが動いたことを思い出させて発表させるようにしたい。聞くことについては目的意識をもって聞けるようにさせたい。

4 本時の目標（2／3時間目）

- 新聞の作品を読んで感じたことや発見したことを伝え合うことができる。

- そこで本時では、前時に学習した連詩とは何かを復習させてから、新聞の中の詩に続いて自分はどんな詩を書くか考えさせたい。また友達と意見を交換する中で聞くことについて、自分のめあてをもって学習させ、最後に振り返らせることを通して、しっかり聞くことができるようにさせたい。

4 本時の目標（2／5時間目）

- 新聞の作品を読んで感想を伝え合い、詩の続きを考えて書くことができる。

5 指導過程 ■は評価の観点 □は直接指導 ☆は間接指導に移る際の教師の発問・指示

指導上の留意点	学習活動及び学習内容	段階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○ めあてを確認する。 【めあて】 どんな言葉や表現を使って詩を書いたらよいか考えよう。 ○ 様子や気持ちを表すためにどのような言葉や表現が使われているか確認する。 ☆ 様子や気持ちを表す言葉や表現を見つけて印を付け、伝え合ひましょう。 	1 本時の学習のめあてを知る。 ○ おもしろいと思ったところを見つけよう。 ・題名の付け方 ・見たもの ・聞いたもの ・手触り ・におい ・たとえ など	つ 復 か 習 む 10 10	1 前時に練習した内容について復習する。 ○ 教科書を音読する。 ○ 新聞の中のさまざまな詩を読む。 ○ 自分が好きな詩について感想をホワイトボードに書く。 ○ 感想を伝え合う。	☆ 昨日学習した詩と連詩の違いについて確認しましょう。 ○ ホワイトボードに学習の流れを明示しガイドの児童に説明しておく。 ○ 聞き返しプレートをを使って伝え合う。
<ul style="list-style-type: none"> ○ ホワイトボードにあらかじめ項目を明示しておく。 ○ ガイドの児童が学習の流れの確認を行う。 ○ 聞き返しプレートを使って伝え合う。 	2 新聞の詩を読んで様子や気持ちを表す言葉や表現を見つける。 ○ 言葉や表現を見つけたらサイドラインを引く。 ○ 自分が見つけた言葉や表現を友達と伝え合う。	考 つ え か む る 10 10	2 めあてを確認する。 【めあて】 次の連を考えよう。 ○ 新聞の作品「学校」の第一連と一緒に読む。 ○ まねしたいところを伝え合う。 ○ 新聞の作品「学校」の第二連を考える。	○ 第一連を示し、まねしたいところを見つけさせてから続きを考えさせる。 ☆ 友達が考えた第2連の意図を考えながら第3連を考えましょう。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 詩の言葉や表現について確かめる。 ■ 言葉や表現の働きが理解できたか。 	3 詩の中の様子や気持ちを表す言葉や表現について分かったことを発表する。	ま と 学 び	3 第二連を発表し、自分の作った意図を伝える。	○ ガイドの児童が学習の流れの確認を行い、学習をリードする。

<p>【まとめ】</p> <p>発見や感動がより伝わるような言葉や表現を考えるとよい。</p> <p>☆ これまでの発見や感動をノートに書いて、どんなことを伝えたいか発表しましょう。</p>	<p>4 本時学習のまとめをする。</p>	<p>め</p>	<p>合</p>	<p>4 友達の第二連を読んで、続きの第三連を考える。</p> <p>5 第三連を発表し、自分の作った意図を伝える。</p>	<p>○ 聞き返しプレートを使って伝え合う。</p> <p>○ 第三連作りに挑戦させる。</p> <p>○ 早く終わったときは二人で第四連を考えさせる。</p>
<p>○ 自分の発見や感動を伝え合うことを通して、お互いに参考にさせる。</p> <p>○ 聞き返しプレートを使って伝え合う。</p>	<p>5 自分が発見したり感動したりしたことを書き出す。</p> <p>6 自分の書いたことを発表し合う。</p>	<p>学</p>	<p>ま</p>	<p>6 本時学習のまとめをする。</p> <p>【まとめ】</p> <p>次の連を作るには、題や前の連とのつながりを考えるとよい。</p>	<p>■ 連詩の作り方が理解できたか。</p>
<p>○ 学習の感想を伝え合う。</p> <p>○ 聞くことと新聞活用について振り返らせる。</p>	<p>7 本時の学習について振り返る。</p> <p>○ 聞くことと新聞活用について自己評価をする。</p>	<p>振</p>	<p>振</p>	<p>7 本時の学習について振り返る。</p> <p>○ 聞くことと新聞活用について自己評価をする。</p>	<p>○ 学習の感想を伝え合う。</p> <p>○ 聞くことと新聞活用について振り返らせる。</p>

(2) 検証授業の考察

3年生は、子ども新聞に掲載されている児童作品の詩を読んで、それぞれ気付いたよさやおもしろいところにサイドラインを引くことができた。また自分の意見を出し合うことができた。これらの活動を通して自分の考えに自信をもって発表する姿が見られた。4年生は友達と新聞の作品を読み合いペア学習を行う中で、自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりすることができた。【資料⑥】表現することを苦手と感じている児童も新聞の詩の表現を参考にして、自分の考えを一生懸命表現しようとする姿が見られた。児童は、本時学習後に「次の時間に作る詩の作品を新聞投稿することがプレッシャーでもあり、楽しみだ。」と話した。



【資料⑥】 学び合いの様子

4 おわりに

(1) 成果

児童の変容として国語科アンケートを4月と1月に実施し、実践の成果を検証した。「国語科の勉強が好きですか。」という項目が40%から100%になるなど、すべての項目において肯定的な回答が増えた。学習に対する満足度が高まっていることが分かった。なかには「新聞を使った学習が楽しくなった。来年は違う活動も行ってみたい。」という児童も見られた。また職員の研修会において、NIE全国大会で学んだことなどの伝達講習を行い、全職員で共有理解・共通実践をすることができ、職員の新聞を活用する意欲が高まったようだ。そのほか、新聞を活用しやすい様々な学習環境を整備することができ、児童に新聞を身近に感じさせる機会を多く設けることができた。

(2) 課題

自分の決めたテーマに沿って新聞スクラップを行うことが難しい児童も見られた。今後、更に効果的な活用法を研究し、発達段階に応じた指導を充実させていく必要がある。これからも継続して実践に励みたい。